

公民館
だより

ココロのこもった絵手紙を贈ろう



日にち 8月22日(水)

場所 町立中央公民館本館

サマーチャレンジスクールの参加者、タイボキッズクラブ、キッズアートクラブの仲間約30人が集まっておじいさん、おばあさんに贈る絵手紙を描きました。

季節の野菜、花、果物などをモチーフに、みんなの気持ちが届くように一生懸命に描きました。一人が3枚～4枚を描いて1枚は自分のおじいさん・おばあさんに、ほかの手紙は9月の下旬に施設に届けられました。みんなの気持ちが届いたらいいですね。

寿 大 学

平成19年度寿大学講演会



日にち 9月14日(金)

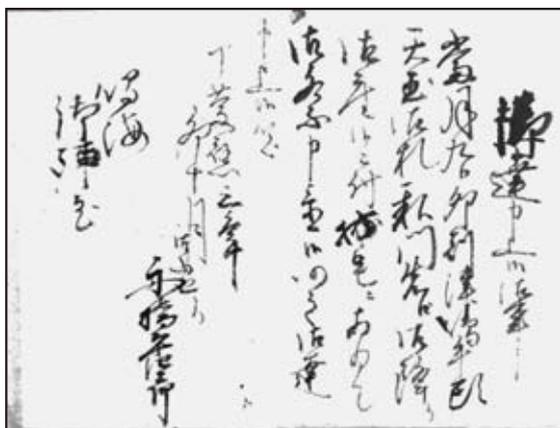
場所 町立中央公民館本館

元阿久比中学校校長の加古栄さんを講師に迎え「ボケたらあかん！長生きしなはれ」をテーマに講演会を開催しました。

「誰でもだんだんボケてくる。ボケないためには頭を使い、よく歩き、恋をし、よく笑うこと。昔は『親孝行したい時に親はなし』今は『親孝行したくないのに親がいる』世の中変わった」などユーモアたっぷりの話に参加者は耳を傾けていました。

ええじゃないか騒動は、豊かな農民や商人、役人などの屋敷に神仏の御札や仏像が降ってきたのをきっかけに「ええじゃないか。ええじゃないか」とはやし言葉を繰り返して、人々が踊り歩いたというものです。

幕末のペリー来航以来、幕府の支配は急速に弱まりました。各地で倒幕運動が盛り上がり、全国的な凶作や長州征伐によって、米の値段が急



津島牛頭天王御札降り居留(「要用記」)

激に上昇し、人々の暮らしは苦しくなっていました。このような不安定な情勢の中、三河地方から始まった「ええじゃないか騒動」は東は江戸から西は四国まで広がっていきました。

阿久比でも、慶応三(一八六七)年十月九日、山廻り役を務める宮津村の舟橋平四郎の門前に津島牛頭天王の御札が降りました。何者かが降させた訳ですが、舟橋家では御札をまつり、酒やもちなどを供えました。うわさを聞いた人々が参拝と称して押しかけ「ええじゃないか」と、はやしたてながら踊り狂い、にぎわったと伝えられています。

記録は残っていませんが、大古根村の英比家にも御札が降ったと伝えられています。

騒動の根底にある「もつといい世の中になってほしい」、「少しでも生活が楽になってほしい」という人々の強い願いが「ええじゃないか騒動」を起こしたのではないかと考えられます。

(『阿久比町誌』参照)

ええじゃないか騒動

子どもに伝えたい
あぐいのむかし

15